



和字正濫鈔卷三

を 遠袁乎弘 音

雄尾緒

訓等

木112  
103  
卷3

岑 万 葉 を 山の尾ふ

リ。峯因

又雄水門。延喜式男社。土佐  
日記より。の後づけ不凡

呼啖 を

わ名わ泉圓根

郡鄉名。武記

雄

を

ます。を

とを

を

年

の後

む

苧 を 麻月をふる

緒

を

年の後

む

の後

を

年

の後

む

の後

を

年

の後

む

尾 を 万葉わ名ふ。たとおへうす万葉  
よてよもとのもよせアよからう

小をこゑと同韵みて 蛇をうち

通す小野小佐等

日を記れ名

よえへりと

とくちうらとくし。又わちよ蝮の下より名花を引て云一多友  
鼻。はよ蝮、わ名波美信或呼蛇爲反鼻。其音片尾とあり。而  
又蛇まとかきてくくまとくりす村あり。平氏う聖德太子傳  
ふくらくくら。どくくまとくりす皆ん。蛇をつべとひふと今  
梅反鼻よハあへでつとを記ていみちうへ。そ段ハくち  
ちくとくとくまでへへとくり。鶴ハくじるむをスハミテ  
くふよ例すべ。りへへとよ及鼻の音みて蝮地  
の別名を總名よいひあせらえ。わちよハつとをハリとより  
のわ名

とす 姨をは

小母の暗行

終をり

尾張をり

わ名たれ

へりす。お送物名よをり。ごもば尾りて池

をりちくめり水のおほくねばとよもり

遠敷をよ

四郡名

尾株をぼ

馬の尾

前年をと

よハ彼年より

前日をとへ 万葉。是のうよすのよよりをち  
よりあるとよちとよすれ。とのどいちよ通り。  
トのどへつよ通ハて。彼津日とくろもやり。津ハゆれあり。

万葉ナセヨハ平等都日とい  
アリ。傍よとさひ人トあり  
紀ユをこうレトトマウハ。すうトていざきよ  
ムモレハ。とこづりモノのくよもけづれん  
媒鳥トトロ  
を日本わたり。誘

雄  
をじり  
踊  
をじる

踊  
をじる  
万葉ふ。又ねま  
モ、十  
物名よき。

のをくらうとほりて川ざるのをざわらぬあ  
トよりみてし。蝶もとくらかくらすむべ

赤箭 ちくじ  
名 あ  
少男 ちよと

少男ちよめ 勝代紀子

をこつゝにて少男此云鳥等孤少女此云平等咩  
とりあり。ど、サムヨニ津ヨニ通ド。て小津子小津女ちづり。け因

のを、ハヤリの字の訓ちり。続日か紀万をふわ名等ひう日が紀  
よあす。れしととおべりす。をとのくとくよ聞かず  
れしとくの内、れをかくとよは能據りとよき脛役あうち勇  
べりとす。よみハ雄子シノコとくみ義よて女をめのくとくよ  
むじくア。をとことくのくろ異なり。をとくとハトヒとを  
とくめよ射ア。す年よくふとくとくをは、老より画

少女  
ちやくめ

万葉集  
トナヲト  
通女處女

なむかくは義訓なり俗よし女とかくは何んあり。しの吳音  
おつゆす。わ名よ山城國オトクニ訓教の仰オトツクニ久近オトツクニ。れよて教  
へ。たゞひ甲乙を兄弟の字義オトツクニにて育オトツクニよあす。弟の  
訓オトツクニをとふよ。うるゝよ。弟のかんちわとやん、何んをまぬきす

伯父をぢ 人名。小父の略也。欽明紀より秦大津父と云ふ人あり。又をちと云ふ。うり。とのをば小母あり。すけよ源スケヨヘン

アテ思アテシ

老翁をぢ 老人アラシナをなす

とばもトバモ もらう

條をちく 日本ヒマツ 紀キ

古事記又薬師寺佛足

石傍光明皇后佛歎

時節をぢりゆ

お節とし候てすよ。わの假名を

彼此をちこち まな假名

せまうる

微弱懦同日 本紀ヒマツ 紀キ

芸臺をぢ 和ハ 名メイ

むかとムカト 日韵ヒガク

居をぢ まマ

折をぢ 万葉マニエ びとおへビトオヘ すだねスダネ ゆ時ヒ わワ

さ腔サカウ

なりナリ とかくり。うつやわのうよよ

めり。つづりまくらへよよみ

雄拔ヒメタ 日本マニエ 万葉マニエ 三ミ

代宾タビン 岡マニエ あア 万葉マニエ わワ

覩をかく 牡瓦マニエ 和名ハナメ

苻葛マニエ 万葉マニエ 三ミ 和名ハナメ

茵芋 ちゆつ

和名。又ハヨツト一  
八丹。レテミハタニヒト

拜  
あむ

は似名あ考。日本紀私記よをしがむハやれか  
むちりとつて。けそくよりへ。又推古紀

寄りよかくとさむへりわたりよね蘿をとせん  
ちうせじとうり。猿侵の戦ひハ代とすし

泳

得未考

及

蒙古文

未考

少名  
蒙古

木名都前足

獵  
志

名 才

○ あひ名  
赤考  
をとぞ

万葉よ鳥を大ちとぞしてよ。又  
鳥の字をかほあまつて用ひるよ。

ごの上略す。大まよさうちをもといふことい  
つたり。もと聖山よりおもて川と下  
をはむぼう。信頼よどぎくひりふれを。古  
浪船ウスナヒト女令下すりすりて。強女オズキを於須伎とゆ  
としより。後よりとおそそくさんとゆ

女をかな  
とくらりとのつらひへんとまほひ  
ちう

妾  
あらわめ 纪

をさうをどく。万葉集か。催馬樂よもとち  
女あんなとづやり。どのつらひへんとまちほすい  
きう  
妾あんむめ紀  
丈夫あくびと  
あくびとけものまろほぢりをと  
ことつぶ。小男あくびと  
えれ、ま婦射てつうり。源氏よもと  
こよみとくふまをまうくわく

井の名和  
戰あゆく

男  
キモコ  
麻鞋  
モモコ

童男ちどくよ 日本  
蒙籠ちどぐ 文選

日記

選文

此字未考。凡之ども催馬樂よこくびや  
小領ちくびすにぬひまをめみしとり。こと  
をと同韵よて通す。種をとお同く  
びともあり。ノ。くびハ領をとくもく  
びともあり。信

よつよえ  
りゆうり  
麻筍もけ  
筍や 万葉ふ績

今義解よ女承よ。麻荀マクモを奉ろ。桶ハシケをけ。水桶ハシケにかゝまつて。れよ付て思ふ。桶ハシケを  
あたげとひよ。麻荀マクモよ。白木シロキをけ。わん。万累マニリ。ひさはくろ竹ハクスよ。よハラタケ

歎 をひき わ

奢 をどり わ

涇廷 文選 をこかま 未

怠 をくつり 未

誘 をこう 日本紀 りくとも

膳魚 をこう わ

瘞卧 をくわふす 日本紀等

簇 をくわ 古事記

羣衆 をくわ なればとも

のり義 をくわ のり義

通事 をくわ 同

譯 をくわ 異國のこ

トヤ をくわ て相交うるあなれど

長 をくわ 里長舟長川

等 をくわ 長等

さむよはじりうあひ ○ まろ 未考

万葉 をくわ リ

軌制トシス 軌ス とシ かス とシ て日ヒ が紀

よふくとト。長コサ とト とト ふきもト

明直 をくわ 一

他田をよた 城上郡よせ 有度郡うど 郡名なま あり。大和國おほや たり。他國ほか の役を から る者の 事こと なま よう てかへ いま え。儲弦をよざ とよ ざる。日ひ が紀を とよ げて おも めを まな のを そう り

不賢をさな

日午紀よ不肖不敏等を用  
すありとさへまじむもまじう

稚をさゆ

こうと治

をさむ万葉和おは

納をさし

兔をさゞ

万葉第古東歎よよ

みされハ東の俗流にてこの方よ通さぬ言えばかよ凡  
乃づき。うさみにと人愛躉アサヒとよさる。傳よ似てうつく  
ーく

もなり

鰯をざ

ざ

をざーハ今ものみざり。わちよ行貫魚ヨウイとあひ、  
魚刺ウツサミの略より。のちハ方至ふよつらへとつくるハよきこ

トウぬよとさをざ

葦をざ

万葉延化式和

ヘス

補をさゆ

考

置津をさりカタシマわ名安房國長狹郡郷名ナリ。置のが  
るハ於本オキるより半本津ハーフキとほせり。地  
の名を以てハ狹名のよめか。

すすりとトよ出すすり

駄驥タラヒをさし

名和

貫をさゆ

考

招餌タチエをさし

万葉

考

女郎花をとる。万葉よ姫押レトカクアリ。これよりて名のちくわを思ふ。さよに花よりて女をとれすんや。姫ハよもよ女ちうり。押ハ俟よおすばつすとソクアリ。

鴛鴦を。万葉よわ名。よみよをとれハまう

駿馬を。万葉よわ名。よみよをとれハまう

教を。わ名よ鶴鵠を。日か紀私記をりて止豆本半<sup>トツ</sup>ニ閉止里トカクアリ。を

トトウタタケアリ。を

韋を。かくも。わ

名

惜を。む。日か紀万葉が。むとおへます。せ下

あく

折敷を。ま。た柄あ

とモガ

来て御供を。磬り人の食わを。とモモトハバダテ  
名付りる。葉盤とかきそてひいてとひよしは

類る。

飲食を。の。日か

紀万

へ。糸よまく。めすばさく。をます。  
とよもれハメ。トヨトメアリ

甥を。い。わ

劫を。じや。す。朱

考

○ まなふ をせうが、背のちとをりふ。源氏わ波よアモ  
○ 未考 ちとせうが、アモ。もくよ勝のくじとをせ  
くじとせうが  
ろくとせうが 食國をすくよ 古事記  
もくよめす國とくじとせうが。食チ金、  
食禄どくふ食のすよ用かくべー

中下のと

魚沼いきの わ名城は國郡名沼ハぬるやをのくいふ  
みち通よられハ彼國よかくいひもくへる  
あり  
へー

針魚 はりを たりう

をの贋

ナリウ魚の名よトロをのくすある  
八音くれよ津へてわくー  
芭蕉 ばきをば 和名并古今和名又信内集よくね  
蕉ハ名をばよまなれとす  
てもの字をくくらなり 十 ドモ

○ まなふ

まなふ

万葉ふたう

○ 未考

まなふ

まなふ

鶴鵠 とづづのくーへづづ えよばくとぶ  
リともわ名  
鯰 さじと あ魚より。岱よ  
ハヒリを 俳優 わさをとす 日下  
紀

薰 かきり

常よりかほりあり。万葉小第二よ杏平流

カ 平流

涵平無 かこをな

万葉小第十九より。あよよりくは

あよねじる信の況よそのあよ片男浪

よてこよせすくもく

とくり流のうりとつみ僻云あよよ

よく。万葉集

赤人のあよかくらひ字を出

して。後を改へりやとう

ちく

連枷 かづき

初名韓竿なり

笠居 かさり

和名。讀岐國  
香川郡鄉名

風招 かざを

日本記

賀集 かへを

初名。淡路  
國三原郡

名

節折

よどり

風流士たとれを

万  
象

婀娜 たとや

婦人たとやめ

日午紀等

九折つゝそり

等閑 などそり

魚 うそ

鱗尾のまわね  
名信ふりそ

絛

ねほそと 鰐目。大  
溝そり

大内 わをうらち

和名伊豫國和多郡鄉名。わはう  
ちらりへきせけ似名をもよとく

ふ

頬 らうわら

ミの名假名  
せよま考

行阿 の假名遅よりあり。頬ハ崩の字の訓トシム。されば崩  
ミわらわいみわんくわつをくわらちりと仰をくわらわ  
能ハほ  
るべ。

和 未

やまと やまとと  
あり。俗よ

そうちと  
りふもとらう

申 ます

あくますと。  
日午紀万葉

大 夫 ます

スラフ  
益荒雄  
あり。男

鰯夫 やしと

和  
名

あ

斬 てをの

和

青

あを

佐也。あれと  
かくへつす

○ ま名

あを

蓑の  
類丸

阿桑

あを

わ名若狭國

磁 磺

あをと

和名も  
礪なり

蔓菁

あをとある

名

螟 蛭

あをとむ

名

滄 濱

あをとみはら

名

陟 瘦

あをとけり

名

鯖

あさひとん

わ名。周防鯖とて名わなり。彼國は伝

はるえ

碧海 あさひみ

わ名。巻河  
四郡名

襷子

あさひ

わ名。音を  
して名付

屐糸

あさひだせ

わ名

摩撓

あさひそ

わ名。  
尊真

うけ

あさひ

掉

あさひ

万葉わ名。

又ハ

竿

あさひ

万葉わ名。伏保川は、  
よりもよりハ居ちり。

牡鹿

あさひ

日午紀。万葉。わ名。みこむ。いやくらは

聞食

あさひ

万葉

擗揅

あさひ

水尾

津籠ツシロ あさひ。水尾。水脉。あさひ。水

進食 みそひ

日午  
紀

駄馬 みそひのうま

わ

鐙韁

あさひ

名

鮒 あさひ

名

○ まみ名 ちあむり お宿本船又入さんを旅人のまみ  
てもくととすりをまくとをあむりといづへまを暗してか  
くひかる。又あゆるをもまえ。却れをもくわきどく、  
れやくとてうのよしよみく泊まれるだわ  
とよりよて信折とかくハ信のこころを

芝折ちあむり 射撃万葉あよかくせたまくら。せき飛  
鳥毛。らさく。まゆか筋十九年よし梅  
の花たわよーをれてとりふをよ平をあくねは衰あ  
とおさす。もくとよつがくくくくく字わらとくそこ  
ゑりくなむ。中もくとよつがくくくくく字わらとくそこ  
まくつうり。假名とたきいん。らしかくくくり。袖をとほぐ

絞うううり。又伝を詮毛といふ。われを捨入るや。捨よい  
こりむねをがそねてよ。うとうとめりけれと又もあ  
あれぞたとていい。うれよ。あれ。ちあむりとほくも  
ほくもんもとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
へきくくく

前夫 ちあむり のをとく

ヒ  
水魚 じとく

引折日 じわむりのひ 古今行

おわせ

ヒ  
鯉 じとく わ

れ 於意憶飲等

老 れい 乃人連老タチシガエとつみへあり。日午紀老此云於喻ト  
とはあり。やいゆてよのかまひもりえ浦ふ集  
よとちゆとよまうり。わづくとゆへ

矮 おいくけ

奥石 おいくせ

近表式作

名帳近江

圓蒲生郡カクウは奥石神社あり。石を日午紀よつとしもあ  
り。石イシじとくれり。今ハモミと暗り。當より老曾社と  
かよきておひうのりりとよいわくられり。万葉よ御  
社とかよきてりりとよめり。延年と神のまゝます

西よハ大うの森のあれとちゆりたまよくよもはくん。万葉  
十三よみかよしちの奥十山オキリ山巣**スズ**のしとつけても  
めり奥十山オキリ山ヤマと老曾社あり。下もと。これより  
美濃行よつく先。引て日午をさるどー

於 おいて 除 れひて

不覺 おろり 日午紀よつとす

愚

おろり

日午紀よつとす

稽

れろり

おひ

又らづぢ

わな

日午

輕易

れろそり

日午

失意

れろけて

日午

下風 れう

万葉

卸 おろす

祖母 わぞ

わ名。大母の暱稱なり。  
姨レハ假名コトナリ。

邑樂 れいりき

わ名上野  
國郡名

蓑蒿 れそぎ  
わ名。刀葉よりうとさうよ兔をかく  
よ依て仙えゆようくにのぬくよ  
ねとく。まこと  
よやまとくわす

御坐 れりります

おまくせ  
もとく

檻 れぐしま

名

鬼

れよ

わ名よ隱の字の音やい  
つり。よよとおへくす

貫衆

れよわびわ

續斷 れよのやう  
ハ又

はく

わ名

燐火

わよひ

名

太

れほ

大わ滅上都よりあらばの名ちり。るの字をし  
かり。をねにといふ氏。いたの名をりて名

けくをすく

朧清水 わほくのまく

よじへ得たり

車前子

れほとこわ

虎掌 わほく

天南  
星也

詩絶れや

万葉おほみ

茶  
わほら

鶴  
れば  
り  
みわ

おはよう  
さうり。源氏おれよ  
あ

柳  
おほし  
名 わ  
祖父 もほら  
大父の  
さき也

邑知、おわくち  
和名々見郡名  
能町ねづ那久名

囊票のえん。袋も票入り  
なんやうなれども、  
溺れて、ぼうく  
おがく。

太伯父より。わが子よ爾雅を  
從祖父文叔を  
祀る。其の後  
川下り。王父之く世父叔

父ハ社ノミコト  
烈ヲヂ乃後祖父王

參車　おかり  
名　わ

# 狼狽

り又大れを御承よりお仕事ありも紫よ大口の主事  
あくづけはうち根のあれよりかうりあはれ

彼國の風土記よみとらうり。こ  
れよよく大井とりよるや

大膳職 おうちしょく とざり

盤  
樹

まわし名  
凡てはよろ

娘  
わら。  
よめをりふらう

人臣、おほき

目印  
虎子  
れうつぼ  
廁具  
和名

萬葉集  
かほつうき  
萬葉  
かほつみ

蘿葛 れほね  
名 わ

猿  
猿  
れはうり  
えハ  
どうわろ

相姑おほあば  
尔雅オホヤ云王父オホシタ之姊妹ヲニシマ乃アハ王姑カク也ヨ  
於保オホ於オホ乎ハトト也トモアリ下トトコ於オホ不ハ乎トモアリ也トトコ

久んを寫生の張りあわせ。叔丈の姉妹なれど、おのの嫁よ射<sup>ヲ</sup>て大娘<sup>オバ</sup>となり。大娘母<sup>オバマ</sup>となりまし。

母の義教より、わがよ文字集略を以て曾、室にひづてら。  
又わがよ孫の一ちをりそんとおゆをりことつたり。信よ

誤てうち孫をりととりうり。目翳をいとひしめの二名を  
いとくやくなとづくよまうハキの字をかきこまうばよハ  
隔の字をとかくち。いとくとみ音通じれふまこと向  
きよや。信よじうどひむほごうといひゆつう。わくよ  
へくよれどとくうりトをたてて。まくよ  
ひす。じくうりちまよあくわるや

曾祖父おほくび  
わが祖父の  
えおをりよ

族父たはわがちもち  
大口袴たはやくらの

ウマ やりやめ  
大和 れかやまと  
ミバトトハおなやま  
ミリリナレテ、犬の字を加え  
ミ近にをあつて、よりして、うちりあつて、  
けと耳代ねども  
クナゲジ  
參議 れはまうりん

覆 れあふ

覺 れぼえ

らほぬと  
遍するが

ヘタリ

のづさ

法主の身せうとよしとを以て。谬ま  
ねやくよじりとつうじとう友なりか  
るつけ

くづり

溟渤 れほさうく わ

弩 れあゆみ わ

名

大路 れふみぢら わ

名

良薦 れほうけん わ名俗よりよ

たゞそこされん

薤 薤 れほみぢら わ名。よもらみぢら

曰韵にて通す

燈明 おほみあい もと 纪

多 おほい

万葉よ太と  
通用。後よは

通す

思欲 れあい もと

おあい

大黃 わば

羊蹄を一といふ。うねぐやうにて。大  
きなれがく名角り。紫莞をの

とひべ野羊蹄也。もゑす。羊蹄よけり。羊  
蹄よせよあれど。うれハ野菜なれ。芳りて名有  
え。妙や。山羊蹄也。白英は。細羊蹄也。蒼蕪  
す。わ名よ尔雅注云。蒼蕪似羊蹄葉細味酢者也。  
あれば。まよく酢羊蹄也。よの便りよ

麋 れほり 大鹿も

わ名

大蒜 わばくじり

仰 れあせ

課 わばせ

當歸 わほざり わ名

のくちり又やまとちり  
とまとうまとちり

音 わと 万葉よぢけし。

大荷

棘 わじろ 未考得。後倭の春日野のおじろのうち  
ひととすも結つた。大臣のあまで徽友よ沈めりす。  
を井よう生く門さくらなり。彼あ乃まのへけをを  
思ひてあくまとひくちまくらと春日せのわじろ  
りてや井よひくんづわよそれば今いの假名は定  
まれアドリトドリふじろくへーう  
凡ゆりわるれひ名をおほせ

警 わとろく 衰 わとろみ

大臣 わとく

弟 わとく わゑおとく

よをく用へづ。足より年のかく  
れハ窮人のくろよみ付くしれ

劣 わとく

茉師 わとく 佛足石傍え明皇后拂キにあ

よハズくとれど。又ハ茉師ちよあむうとよ茉師如素の  
御事をとづめうもれをきくより茉師ちよきく  
んをふほぢくし。やめ 一たぐくれくくよや 頷 わとくびへ わ

婦婦 れとよ わ 名

長 れとよ ま 考

響 れとよ わ 日本 紀

訓 れとよ わ 名山

名。彦仁紀より葛野郡房國とあれハ主は割て郡と  
ふされたりなり。彦仁天皇丹波道主王のものとめ又人  
をあせらゆよ竹野媛ハみよくすよすりて本土より  
一つづくらすを神て。ちりすて興より墮てあ  
まりけりかよおちくよひへくるを。  
よりかまつりてあくとくよひへくるを。

怖 れどす

隱地 れち わ名尼岐

國郡名

下 らりゆる 日本

綺 らりりの かむり

日

織

紹 日本紀万葉和名等。世  
よみうりとぞハ強より

綺

らりりの

かむり

日

寵

おみ 日本紀万葉  
延喜式等

妖言

およづれ と

日

紀方葉

指

れよび わ名附駢指  
むつぢよひ

錯 わよびぬき わ

愛宕

わよび わ名山城  
國郡名

穏

わざい 後日午紀打  
やうおう

爾

われ 日本紀古事  
たんを殘

めて罵るもより。今の世とうれりよふもこれも。が  
ハおのれの中暗えよトさまの人をうへてこれとす  
我ハけりす。どとおみ育の字な  
きハれとひよ同。キムモ

齧 れそば キモリサシマツモリ。おそひぞなり。  
とかきて。二枝サイナギのぐくらむる押歯皇子を吉年記よハ押歯  
名付奉ふとあれ。あ。ぐくらむる歯あれ。信よ就ち  
ざといらじて奥の方よをくまづ歯あれ。達  
歯もと思ふ人あらう。まさうつすへる

恐 れそく

襲 れそよ

駕馬 おそきむま わ

遅 れそ

あ。をの

字見く

鈍 れそ

あ

落 らつ

万葉抄みよ率の字と用。同韵よて通  
するか。おをもくす。多きよほくへ

憎 日午 かづ 佛名ハ佛足石

同 れそ

日午紀并  
万葉より

や。ドレレレ。同韵よて  
通し。るも。別よ古波と  
き

あり

嫗

れむふ

わ名を妾稱  
也。女の假名

ハシムアヘハおいをんみの略也。れを用てまつり。  
セモスムよすもキタカエハシムのけ。ム。ほ民也。後  
ユレウムとつみてなまと。タラビ老嫗のムナリ。ナリ  
ム於の字を用ひ。タラハキルトロム。タラカラ  
アリテ。姫<sup>オサキ</sup>カタヒ名付く。ゆもとらふるや

御者 オンウマム<sup>日</sup> 記 隕陽師 オンヤウド

佩 わむり類聚四史  
わ名焉。也。 馳射 わむりのり。わ  
射也

己 わのれ 万葉集。あをれ  
わのれ ほ。をの

自 わのつ<sup>フ</sup> おのれ  
各 わのくわのれ  
わのれ

起 わく 万葉十ハよを

きてハ クトシカク

除 わく 日本紀。あをれ

きとモカク

置 わく 日本紀。万葉集。

きとモカク

送 わく 万葉集。送り

をくとモカク

贈 わく も家也。と人

よ筋もらう。

字不  
て用  
あれハ  
准<sup>シ</sup> 准

奥 わく 万葉

字用へ  
くす

わぬよ餉加乳比  
オクル  
放久留レモアリ

後  
わく

もあらゆるやうの字  
用とくはよ

墓  
れ

月刊紀  
文政

晚稻  
水之子

水久又万  
第一回

かく

親  
祀  
考

心のとなり

徒座れ牛

和名

生も

蛤  
牡  
名  
也

飲布行

和為上總固  
望陀那鄉名

太市わゆ

穴居に仰伏され  
とかくぬるぬる

瘡啞  
れ

名  
系

凡河內

か

北海道  
あさみ  
名和

丹陽力行

金匏  
行  
紀

柏宇 文  
遷 村  
わあげ中のふり  
清濁未だ  
きハ水をわてゝうかひを  
伏すれ。上の金瓶ハ仁徳天皇紀より不よぐと  
きよ水よ浮へて水よ沈めよと云ふ  
さあざつ

タラウト。あんばは柏原のわ訓と内義丸。也。わ訓ハ  
今のはすよハ抱リ。す。抱よつてすよめん。又上の凡の内  
を又曰か紀并古事紀よ大ぬ内。も。か。も。も。わす  
ひさごこし大匏。も。よ。や。今ハ大の。も。あ。り。又代紀上  
までよ云又全剥真右鹿之皮。以作天羽黼。全剥此云宇都播  
伎。げ。全の字をうつと。も。う。う。ふ。の。も。る。り。伎。伎  
より。人。も。ぞ。と。と。よ。け。へ。り。月。乃。か。缺。よ。よ。り。て。い。す。よ  
ま。も。ハ。今。き。う。う。。れ。ハ。う。う。い。ま。と。と。よ。じ。へ。き。を。ま  
ト。ト。と。と。

ちへ後れ  
りふけ今發  
のまわり  
行  
おこす  
れて  
おこす  
れ通姫の  
御さすよ

のうちのうちまひといふと。自ら紀の允恭天皇紀より區  
能於虛奈比トトあり。これと併し。す。よ。の字を  
用ひハ  
於期菜れど。のり。和

わ名。乃遺集め名よもやりこめ  
粗糲ガウノとくらむとよめちあり。  
あるるガウノ衝コロ猿樂コロ尾張粗糲コロとくらむとよめ  
ぬよ、かくらうれむもハ云シテあめシテのじシテ尾張圓コロの名メイ  
なりシテよや。名付シテもシテ令起ヨリシテ采ヒム也。俗コトよ其シテのさよ近  
きシテのもシテありてシテ氣キをせずすシテなシテれくろシテりシテ

處  
れども  
又やねたまへと  
遊仙窟、世間の萬葉

押 わさく 万

忍坂 わさく 和名大和

國坂上郡

刑部 わさく わ

名

瀛

たま

日が紀の名を。もと漢字の奥の字を用。たく  
おさみを通す。海のたくのくよ名付。候日半

は紀の漢の字を用。奥の字より三画を加へて。瀛とよ  
て作。もろ字をもと。鳴<sup>ヒ</sup>樋<sup>ヒ</sup>榎<sup>カキ</sup>椎<sup>カシ</sup>烟<sup>ケン</sup>磨<sup>マツ</sup>辻<sup>ツヅ</sup>等<sup>ノ</sup>は回りて作

もろ字なり。れきへ一樋

ハ字の彙よ本名もあり

隠岐 わさく

瀛のくよ

熾 わさく ふきしゆく

息 わさく いきるより

意の字於より

を思ひよいした通

瀬

わさく 未考。わさく

もろやうあく／＼  
さきろハ助けんむらハ子の字濁ろま／＼さかんだふせ  
ふろが／＼さうなとたすよおほくとくろまなま

息津 わさく 弥<sup>ミ</sup>河<sup>カ</sup>廬<sup>ル</sup>京<sup>キ</sup>那<sup>ナ</sup>

翁

おきとむ

附古老にきよじと。さなよつうとのおこ

息長河 わさく

かく

もとつけて。もとづり。假名よくづり

水よアス<sup>アス</sup>。日が紀の息長河。近江国坂田  
ころを／＼。おさみ申<sup>シ</sup>とす／＼て。なまれ入りしんのくる

きつやうりあ  
き時推すう

わ名ふ

翁

白頭公 おまごのくさ

揻

おきて お名假名  
カま考

塵虫 ためし

わ名。おしりとよもあり。假名  
ま考。カモムヤヒテヒ虫。よ名府

いは假名かへ

使主

たみ 日下紀

臣 たみこ

日下紀。又日下紀。使主と通うて用

おもをもほよんとづるなり。申はハ中津。津はもつ。集  
やうめももり。都於切登なる。あよつめて。もうらさみと

富の字の ひとじと思ふ。ソ得ナリ。

臣本 たものさ 万葉。今かとといふ本。ト。たと  
と同韵みて通すれば。どりのあ

ゆるる 意美磨 たゞまろ

中納ミ申は鶴はを美磨なり。持統紀。お京御院  
臣磨とある。此人をも。御通のちよゆくまく。之に假  
名を付くる

機

ね

日下紀。押の  
字乃もを

りて名

箇弓

ね

和名をく

忍壁 わくへ

和名抄は國有馬郡の名。天武天皇時  
子忍壁皇子を刑部少輔とす。

わくべわくべ

わくわく

晚稻 わくね

ほまの名  
假名せ

よ未考。わくよ今かくけむるやハ。わくねハおくてもあり。  
ま本抄よ。あらそきのき合の判句をりくふよ。れあり。  
れもハおそいのそよへよと曾以切えられば。でめてお  
一称とハよき。きの字乃假名ハ於なき。中もろ  
すり張て遠を用ひよりうて。え達の字又小稿とん  
いれらるす。あり。後れ翁のうよ。秋かくむろ  
のをくねを思ひ出て春かくたるせよ。ゆきかく。  
これも只編を小稿とし。とくにて。うすらうるも。いは

をもひとくべ日韵相通なり。日午紀の歌家天皇の  
みすじよナ握稻穗をどうの一ねのぼく鳥。候  
るふよみねほくをみよよくつとし。序編なり。  
かくはとよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
るわざ田かく。うきせあひのうせよ。とま稻を  
こくくくみよをとて。えもれひつこのおくてとあ  
るある。申すと年漏ハ。ち忙よ。紀の國のじうひよ  
とみよおひて。うきせあひのうせよ。とま稻を  
え子教矣よし。かどれかれて。うきせあひのうせよ  
むろの刈田よ略。うきせあひのうせよ。うきせ  
せとくも。せ。後れ翁は。堪能する。任きて。ほ

いまよよやうとすゞでかくろうおほ。が  
ひのとくわね梢しきつまわわす田のむ。ね今やか  
や。とあらしよんのうるよ。あてやまきれえ。  
わくよハ兜縄を信よだくて。とよとあくハ奥。すまう。  
奥とくはよきあれ。いふ。もハねによもの字を付て。よ  
云おほ。縄きたのもよけり。もきをもう。縄。中ほよ  
出するをへゆ。もととくら。但も。をふすハ。よ。歎のう。よ。奥  
よち。も。さ。あ。う。と。よ。あ。ハ。歎の。を。く。ま。よ。じ。  
きへ。れ。く。て。ハ。縄。の。よ。じ。つ。て。い。よ。う。よ。み  
ゑ。方。九。よ。わ。ま。く。こ。ふ。く。く。よ。あ。う。ん。い。じ。う。も。乃  
わ。う。奥。の。よ。す。れ。て。い。か。よ。ば。剣。を。く。ろ。と。よ  
め。り。川。を。い。ら。ち。ま。れ。と。い。ぐ。奥。の。よ。と。臂。を。

ア。臂へはたてよかられて。あくよもかくわ  
なり。奥おくむろむろもさくととよ。兜かぶとのこふく。われ  
すあり。水みずはまくじゅくじゅく。ありををなして。あけけんせん。だ  
まくわくわくね。やくふよく。たくして。はまくわくく。  
わのの。訓きみ。螺はまぐり。観くわん。すす。檳榔ペニン。唐カントウ  
猿さる。はゆ。ざる。の。別べつ。あれ。ど。うわ  
あく。くわ。ハ。ち。ご  
つて。わん。

玄參  
竹  
名  
和

八夾

万葉。假名日午紀并  
万葉小難波村也

日午  
紀

帶 れひ 日午紀万  
まわ名

釋鞞 おひどり 名

鞬 れひは わ  
名

勝 らいとくろ わ  
名

膳 らいももり わ  
めのとくし母ハ恩を  
くれハキト云義元  
子のる

母 らし 古役より。附  
乳母らおし又  
黒

侍從 わたりといとまち  
なり

黒

顔選 らもかげ

文

澤鴻 おりづる ま名假名  
せま考

絡頭 らとづら わ  
名

阿容 らゆゑる 未  
考

赴 らしむく 面向る  
背そむく

をまうるよりよりより  
よりよりよりよりより

思 らゆ

なり

面 らもく

表 わりて

重 れり おりく 冴怜 れり ろー

候日午紀。

万葉古傳ねまよ大極大祚天の黒毛を生すとまひく  
は人のおきてゆくよみくらむ面に といひけ  
ろよアスカアリ。げ怜ハ憐みて音しもとえぐるを  
ちより通つて用毛アリ。サニ二字を日午紀并よ方  
葉ようまとと  
あくわとと

篤疾 れきし 日午  
紀

想像 れしひや もも 思遣 れしひや もも

よハかくもきて。ち思ひをやりを  
すばり。想像よハ同か

押 わす 万葉新和名。押すとまへへへ。家庭へのうよ  
あらの寝あり。ひくよハち居よ天の下を押ぬこと  
よりハナを押てゆとくらむよ内方を押内方と  
づくをアとしてを一内方とづくたる  
アツアツよハキハキ。あれハ彼名くもく

於須岐 わすま 古語於遺よ強女

護田鳥 わすめどり 和

申下のれ

稻負鳥 いなおほせとり わ名よ方を引いた  
のまづ。若躬撰万葉ふうりを躬撰の二字篇へりよ  
とどへと奥義ねよわ名をりわくらすし只万葉集  
えとあれハ暗記のたうつるや小町あま  
よひよひとよめうしげきの別名也

外祖母 はくよのわご わ

外祖父 はくよのわごち わ

錘 はつつのねり わ 促織 いのむりめ 和

名

名

腹帶 はくねい わ名。俗よ馬のくらひどり。良旅  
切呂なれど。はくねいとよへま。  
三ふね通一て。稱一て  
けりらりりりりりりりり  
俗云。よおもひとあわづくりみつ。ハ佔水。きりよ。よもひひそ  
よりよりよりよりよりよりよりよりよりよりよりよ  
字を嘗よよんげとよじ。濃水。すり。わ名よハ別よ醜の字  
を出せり。菓けらよよよよよよよよよよよよよよよ  
かく。名付き。似水オモヒとよよよ  
や俗よおもひとよよよよよよよよよよよよよよよよ  
乳母 ちやく わ名よよよよよよよよよよよよよよよよ  
を略して。めのよよよよよよよよよよよよよよよよ

のち御代紀

トヨミ

のえ代紀  
トよあり  
がりよりとしとく。がくおもと川ふ齊高な  
卫かくさうのわちあれとせらより音をもて  
わぬとてまわり。け圓よ萬をよめんへ延暦十六年  
十月よひよのあくとく行ひしと付シカ  
もぐれのゆよきのれをもくとくわくとあくとくのちを  
とよるせくまつるよりとくア寛平の行時よ今とさ  
せぬつるよりあきかなり。ま乃集よ聖武天皇の所  
あくとて一首あれとく乃さはあくわくをのひよハ  
いよすまうふやうよくらま  
革帶 カハ乃わい わ

菊かおもひよ又わぬ

革帶  
かは乃わい も

苦矣  
かみたゞ  
か  
又ハカヨ  
かわ名

又ハカ年

わち大隅國郡名。れいとくの字のりきと  
謂ひて、それもあらわす。彼國のあらわしは、故の字をと

九月

駢拙  
じつわよひ

秆麵杖 むきおすれ  
ア今うの佐より 麵棒なり。  
和名云揚仄漢語抄云餽飪博託ニ音字亦作麌麌見玉篇  
秆麵方切名也又云四聲字苑云秆古旱反上聲  
辰衣也。秆ハのと  
とよもじへ  
舟  
うけらわい  
名

輶  
うはらわひ  
名

猶豫うれひ  
占をすくや  
よそづかう

日か紀。又もあをふよハウラオモテ田心トノコより  
ア。ゞやあんかくやあんと  
懷香カイセンくれのわし  
名和

鞍馬  
くわま

わ  
鞍  
鞍  
く  
れ  
く  
わ

排鞍肉 くわいあまにく  
和名

名和

希 袶  
ひわほし

和名  
老宿  
あつねまろ  
あ

陸奥  
みちのね

日暮にて、まことに  
よむつのくわり、  
陸をち

のまよかうてかくすのあくよみてほまうん。  
こりうき。みとじもちらとりとかよりてりも  
箕面みのれ  
トヨモトモトモ  
れえよハレいと  
う。れいと  
みおりとくよ  
きくよきく  
のやくよ一宇のう  
ちよてつよつよく  
ちよてつよつよく

衿帶 ひまとべ  
名 わ

下トのは  
附をれよやくわんをもす

山巒  
いよ  
わ右。あ紫の石穂とかくわ。ほの下  
ほもとひらけ松の字よりてくわ。

あらりてアスム名付るア偏居るとの  
船の帆イわ訓ハ月をとるく

五百重山いほくやま おほくすきわら山のまな  
万葉千を古弓記より万葉千を伊保かとかくちを  
ちかくちとよ弓を百千返りよりといふハシマリヘ  
さりやとゆめれトヒ弓ねきキムヨ行脇うとうより尺  
たれ弓の比までハ偏名をとくかくへくれと百千返  
みへあらずて 別の弓よや

庵 いほく

盧 いほく

營 いあく

勢 いきほし

憤 いきほり

日午

紀武

内宿

祢欽

早穂 はつホ

偏のあく

紀午

てえ神よ奉り天嘗含より御よ拔穂使をなすくられ  
ひそりかくりよりくのものわを御よ奉るをりある。三  
代実孫よ錢早穂ニナ文とく。今の信  
初尾トカクハ暗推みて偏名トナリ

鷦鷯

はぐ

日本紀古弓記万葉和名等又古事記よ

勾 にあく

頬 ほく

わ名又つゝト  
のほをあく

くりかきをとすアモハウトソリ。古御よあくじとあひ  
うふほどもソリソリと頬を物を含むしなれがくどり。  
懷をあくまくとソリソリ含不<sup>ト</sup>言<sup>ト</sup>ソリソリ  
ヘヘ。つを面のをあとおもくほり<sup>ト</sup>ほり<sup>ト</sup>

厚朴 ほくかくものさ

万葉

わ名

張 ほたち 俗よ方立とかくハ名假名サモナリ  
アリ。わ名より保古多知トありて尔  
雅住を引て門雨旁本也トソリ。錚の<sup>ト</sup>アシキミ  
ろ本なれハ片立也。但又わ名ヨ辯色立成をリテ<sup>トワラ</sup>戸頬  
トあれそほとこ同韵みて通一<sup>ト</sup>て。ほ<sup>ト</sup>ちをほ<sup>ト</sup>  
アシキミ<sup>ト</sup>アシキミ<sup>ト</sup>。錚を考<sup>ト</sup>よハのこきアシキミ<sup>ト</sup>アシキミ<sup>ト</sup>。

名<sup>ト</sup>ハのほきアシキミ<sup>ト</sup>アシキミ<sup>ト</sup>

酸漿 ほづき

わ名ガ<sup>ト</sup>  
ち日午記

面子 ほつさ

かほハセレ<sup>ト</sup>。

遊仙窟わ名

鳳蝶 ほてふ

わ名<sup>ト</sup>れハ二字トモよ音なり。然登

斂咲 ほきも<sup>ト</sup> 又忍咲也遊仙窟。これ<sup>ト</sup>るま<sup>ト</sup>ほ<sup>ト</sup>  
咲<sup>ト</sup>いみ<sup>ト</sup>う<sup>ト</sup>又頬<sup>ホ</sup>の<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>

以<sup>ト</sup>もあ<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>ふよ<sup>ト</sup>く<sup>ト</sup>

綾 ほすけ

頬助

焰 ほの火

火<sup>ホ</sup>木<sup>ホ</sup>

ナ市 とほち

わ名大和國郡名ナハ事ハシをなすり  
比名よハ考アヨ送つる事ナレバ。故

あり  
へし

於きを二日。どもやうとおへりす。議通  
外のあうて。かくと星をとくと見えよ。

通熊 とほりくま わ名をと長下郡に名あ  
る。どんまことの化あり

上祖 とほりおや わ

遠射 とほるけ 和  
名

遠 とほり 古事記もうちおわ名ホ。  
とほりとおへりす

大 とほりう

もの名日年紀。  
假名もあれ

調 とのあら

滞 とこどり

止凍  
とりよ

き

蝙蝠 かくわゆり

わ名  
等

顔 かほ

薰 かおり

○ 未考

かほ ほれやうの事をかほる

とい  
つり

埴穂 かすほ

刀  
葉

悦

よろこほひ

伊勢  
おれ

丁 よほろ

日本  
紀

膾

よほろ

清濁  
お考

丁野 よほの

お名近  
笠井郡名

粧

よそほひ

徘徊

たちかゝほる

モト丸  
立廻なり。めぐらをりとほりとらへ右行まつ今  
左のりとやくわちとりよもまつれをりうをらす  
いふゆのゆきかこまをりとほくねくよ  
えまきわのめくらとくをくわくよひづり

流山 よほのやま

神代  
紀

○ 有名

よほり

廣もいのれくよとくね  
すりだりとくよほりをくよ

○ 未考

よほり

神代  
紀

名牛

よほよ

日本  
紀

猶

よほ

万葉よたほ。よを  
し書ハ得ナリ

直入 なほり

四郎名  
わちせは

襯衫 ちむりのこう

直衣トモエ

いわ名

空

ホウ

うつは

くへ。海シマ

とくもれ

豹タヌキ

にて

通す

四甲賀

郡シモカタ

大れオカシやまなり

多れオカシほ

八百日行濱ヤシナヒマツカニ

万葉

真帆

マハ

片帆よ

駆スル

飛廉草

アマモテコ

又アリ

きわ名

蜻ツバメ

剝ハグ

ぎ

名

郡コボウ

比コボウ

こわり

凝アラシといふ云

溫コボウ

和名小蘿コボウ

冰コボウ

を折ハサフより

へきと略ハシタ一々ハシタのやがての字ハシタ

からん骨蓬ハシタ

うちハシタと思ハシタよ人ハシタもあハシタひがみハシタう

黎明 あくろきろをひ 赤曾保舟 あけのそ

ほふね 万葉抄代紀下よ赭をとほよレトウメリ。赭ハ  
出アシトヨアリトテ真赭アツホシアリ。 赤土ナリ。万葉ナリよまよのまよはのまよ  
り。赤モハ赤赭アツホシ船ナリ。

牽牛子

あきうすや 吾名

槿ハ葬ナリ。申シテうすり併てくわをあすうやとよ  
めり。葬ハわちよまくらすとあり。比蓮花シテよ  
一石のさななり。俗よむじくげとひべ本草もナリ。又本草  
落トリムシモカホ比蓮花ナガタナリ。花の様只一粒の  
槿花也。

狹穂

さほ 佐保よ尚。 春日より

猿嘸 サルハ 猿頬サルモチ か

りわ名 競 きぼよ

半天河 ミタケ 天のうつはのう

名

操 ミタハ 未考。 横行乃岸のくくるはく  
とちく 一てたゞきのたとひすくはく

御修法

みしよ 佐

信

壇 一叶

○ 未名

もとほ

万葉抄

ほよレトウメリ。唐氏よもくくまづくらうく  
とよもくくまづくらうくまづくらうく  
とよもくくまづくらうくまづくらうく

せきねのふ  
よりくす

鞍 あほで

醯 あらげ は わ名肉 醤入り

一入 いり は

醤

り う ほ

旋子 かくほう

鷺  
具

迴 万

り う ほ

日を紀古事記 万葉等

縁 や う

り う ほ

催

り よ ほ す

羨  
よし

賃 すみほ すみなべ

の賃を

